

共同利用施設 案内

室名: 生体分子解析室

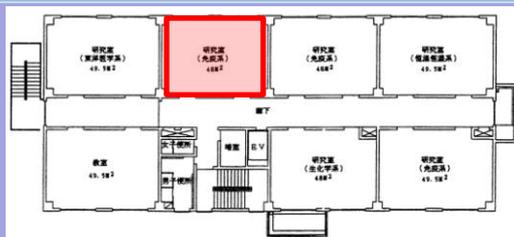
主任: 鳴瀬 善久
(解剖学ユニット: 内線371)

場所:

5号館2階

内線: 270

施設利用手引き



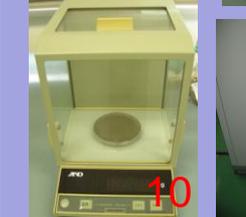
概要: レーザーマイクロダイセクションは、組織切片上の標的とする細胞塊をレーザーによって切り出し、採取でき、特定領域の遺伝子発現やタンパク質解析に利用できる。また、低温室を備え、低温条件下での研究が行える。

共同利用機器備品リスト:

1. レーザーマイクロダイセクション蛍光システム(MMI Cell Cut Plus with Nikon TE2000-S) 1セット
2. 蛍光顕微鏡 (OLYMPAS, BH-2)
3. 低温室(プレハブ冷凍庫) (SANYO, STJ19)
4. タンパク質精製システム(ATTO) 1セット
5. 大型回転マイクローム(YAMATO, RV-240)
6. 小型回転培養機ローテーター (TAITEC, RT-5)
7. バイオシェーカー(BELLCO BIOTEC.)
8. 製氷器(HOSHIZAKI)
9. pH メーター(HORIBA pH METER F-12)
10. 電子天秤(A&D ELECTRONIC BALANCE)
11. 冷却水循環装置(EYELA COOL ACE CA-111)

機器用途【なにができる?】

1. 顕微鏡下で組織切片を観察しながら、組織切片上の標的とする細胞塊をレーザーによって切り出し、採取、回収することができる
2. 免疫蛍光染色した細胞や組織を観察することができる
3. 低温に設定された部屋で、タンパク質の精製や低温での研究に利用
4. カラムクロマトグラフィー用モニター & グラディエントシステムによる生理活性物質の精製などに利用
5. パラフィン包埋した組織の連続切片の作製に利用
6. 免疫沈降実験、ゲノムDNAの抽出や微生物等の培養に利用
7. マイクロプレートやシャーレをゆるやかに攪拌することができる
8. 砕いた氷を作製する
9. 溶液中の水素イオン濃度を測定
10. 試薬の量を測定することができる
11. 試料を恒温冷却できる



生体分子解析室の利用について

1. この解析室は、主に低温室での実験、蛍光顕微鏡での観察、レーザーマイクロダイセクションによる組織切片からの標的領域のレーザーカットを行うことができる実験室です。
2. 機器の利用を希望される利用者は、主任に連絡の上、各機器マニュアルをよく読み使用してください。
3. 十分な研究経験を持たない機器を初めて取り扱う者は、機器取扱いの経験を持つ者が同伴できない場合、機器の講習を受けてから使用して下さい。主任は、初めて機器を取り扱う利用者に対して、機器の経験豊富な利用者を紹介して、迅速かつ円滑なシステムの運用に努める。
4. 機器の使用予定者は、生体分子解析室の機器利用予約ノートに使用日時、名前と所属を記入して下さい。また、予約の取り消し、変更等がある場合、利用者は予約ノートの記載変更を速やかに行なわなければならない。予約時間を一時間過ぎても機器の使用にあらわれない場合は予約の取り消しとみなします。利用者は機器使用の終了後、使用ノートに所定の事項を記入しなければならない。
5. 利用の注意事項
 - 1) 利用者は、使用に先立ち、低温室内条件、設備、機器等の異常や不備に気付いた場合は、直ちに主任に連絡すること。
 - 2) 個々の機器の使用については、別に定めた使用法に従って使用すること。
 - 3) 機器、設備等に破損および故障が生じた場合は、ただちに主任に連絡すること。
6. 使用する実験の消耗品は全て個人が所属する研究室で準備して下さい。共通利用の消耗品である、キムタオル、キムワイプ、ペーパータオルは経費でまかませんが、無駄な使い方をしないように心がけて下さい。また、実験室、低温室の整理を定期的の実施し、所属不明または長期放置の物品等は主任の判断で整理、処分します。
7. 装置の調製、修理のため、やむを得ず装置の運転を停止することがあります。この場合、主任は利用予定者に対し、速やかに連絡するものとする。
8. その他必要な事項は、主任および利用者で協議する。